

かざぐるま

48号

連携の風

CLOSE UP 院長就任のご挨拶



左より櫻庭副部長、中村雅則副院長、佐藤朝之部長

CLOSE UP

- 『総合臨床センター』のご紹介
- 『気胸センター』のご紹介

INFORMATION

- 連携医療機関のご紹介『桑園オリーブ皮膚科クリニック』
- 第2回市民公開講座のご案内



市立 札幌病院

● 基 本 理 念

すべての患者さんに対して その人格・信条を尊重し
つねに“やさしさ”をもって診療に専心する

● 役 割

- ① 高度急性期病院として地域の医療機関を支える。
- ② 地域医療支援病院として地域の医療機関を支える。
- ③ 北海道・札幌市の将来の医療を担う人材を育成する。
- ④ 良質で安心できる医療・サービスを安定的に提供する。

● 役割を実現するための6つの基本目標

- ① 市民の命を守るため、他の医療機関からの受け入れ要請を断らない医療を実現します。
- ② 地域の医療機関と緊密な連携体制を構築します。
- ③ 医療を担う人材を育成するとともに、先進医療に貢献します。
- ④ 医療の質を常に向上させます。
- ⑤ 患者サービスを充実させ、より快適な療養環境を実現します。
- ⑥ 業務の効率化を徹底し、健全な財政基盤を確保します。

院長就任のご挨拶



日頃、市立札幌病院に対して暖かいご支援、ご指導をいただきありがとうございます。2025年4月1日付けで市立札幌病院院長を拝命しました田中 博と申します。院長就任にあたり一言ご挨拶させていただきます。

当院は明治2年(1869年)に設立され、今年で156年を迎えます。その間、社会情勢の変化に対応しつつ、札幌市内の急性期医療を担う基幹総合病院として安全で良質な医療の提供を目指してきました。「救命救急センター」、「地域がん診療連携拠点病院」、「災害拠点病院」、「総合周産期母子医療センター」の

指定を受け、また身体合併症を有する精神科救急を主に対応する「精神医療センター」を併せ持ち、加えて「第1種・2種感染症指定医療機関」でもあります。コロナ禍において当院は地域医療の「最後のとりで」として、他の病院では対応が困難な時から率先して患者を受け入れてきました。当時は感染症患者の受け入れを優先する状況であったため一般患者の診療を制限する結果となり大変ご心配、ご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。

我が国では2008年をピークに人口が減少しており、出生数も減少の一途を辿っています。今後はさらに進む生産年齢人口の減少と相対的に増加する高齢者に対応する変化が求められています。医療の現場におきましても、業務の効率化や自動化、タスクシフト、タスクシェアなど働き方改革を早急に進める必要があり、また地域医療におきましても今まで以上に医療機関の機能分化、連携の強化が求められています。

当院は「すべての患者さんに対して人格信条を尊重し、常にやさしさをもって診療に専心する」を基本理念に、「市民のため「最後のとりで」として地域医療機関を支える」を使命として日々業務に励んでいます。これまで以上に変化する地域のニーズに適切に対応し、医療機関のみなさまとの連携強化、役割分担を進めて、住民のみなさまが良質で安全な質の高い医療を受けていると実感できる医療提供体制を目指してまいります。

今後とも、みなさまのご理解とご支持をよろしくお願いします。

自己紹介

私は1989年に北海道大学医学部を卒業後、道内各地(苫小牧、旭川、美唄、釧路、名寄)にて勤務し、北海道大学病院を経て、2012年より市立札幌病院に勤務しております。2013年より泌尿器科部長、2019年に理事、2023年より副院長、2025年4月より院長として現在に至る。

専門：泌尿器科(排尿障害、尿失禁など) 趣味：YouTube：DIYもの鑑賞

総合臨床センターのご紹介

市立札幌病院 総合臨床センター部長 佐藤 朝之



資格等 日本救急医学会専門医、麻酔科標榜医、日本プライマリケア連合学会認定医・指導医、日本救急医学会ICLSコースインストラクター・ディレクター、日本外傷学会JATECインストラクター、日本DMAT

当院への患者さんのご紹介をお考えいただいている先生方、「どの診療科に紹介すればよいかわからない」「複数の症状があり、対応が難しい」といったケースにおいては、ぜひ総合臨床センターをご活用ください。

総合臨床センターをご利用ください

総合臨床センターは、診療科が特定できない患者さん、複数の問題点を持っていて、それぞれに対応を要する患者さんや、心肺停止や重症外傷などの集中治療を必要とする患者さん以外の救急患者さんを受け入れて、診療科横断的な初期診療を行っています。当院に患者さんをご紹介いただく際に、診療科がお決まりでしたら当該診療科へご依頼ください。患者の問題点が多く診療科が決まらない、あるいは、診療科横断的な対応が必要であるという場合には、総合臨床センターにご紹介ください。

入院治療が必要となった場合には、総合臨床センターとして臨時入院の上、翌日までに病院として受け持ち診療科を決定し、治療を継続いたします。

当院での急性期診療に目途がつき次第、ご紹介いただいた医療機関をはじめとした地域の医療機関に診療を引き継ぎさせていただきます。

総合臨床センターの沿革

総合臨床センターは、2014年、臨床研修医の研修として、診断の付いていない患者さんのお話や症候から医学的な問題点を抽出して対処する経験を積むことが欠かせないことから、当初、『指導医と研修医とで、受付時間外に来院された患者さんの診療と、入院中に状態が悪くなった患者さんの初期対応を行う』臨床研修センターとして発足しました。その後、院内コンサルト体制、入院体制の整備を進め、救急車の受け入れを開始し、対応時間も平日日中から24時間365日の対応へと拡大し、全診療科が広く診療に関与する体制として構築を進め、2020年より呼称を改め総合臨床センターとして診療しております。

どのような医師が対応しているか

日中時間帯は、初期臨床研修医22名、この中から1年目2年目それぞれ1名ずつ2名がベアになり、指導医のsupervisionのもと初期診療を行います。初期診療ののち病態の評価に基づいて、院内の各診療科に引き継ぎます。指導医は、救急科、小児科専門医、プライマリ・ケア認定医を取得しています。

夜間帯は研修医1名と、院内診療科医師1名の2名で診療を行います。

どのような患者さんを診ているか

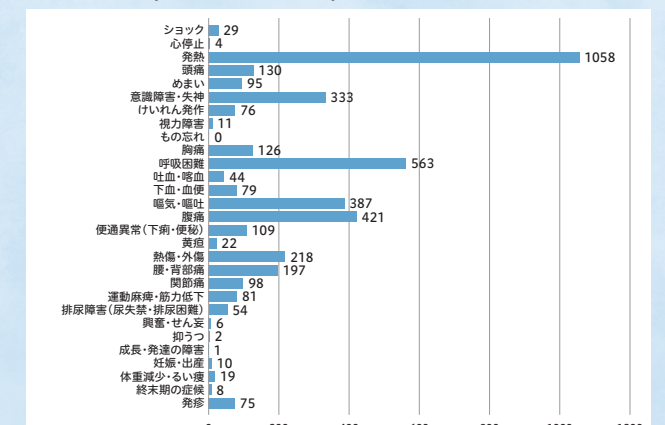
ご紹介いただいた患者さんは、手術の対応困難などのやむを得ない場合を除いて必ず応需させていただいております。以下に2024年度にご紹介いただいた患者さんの症候をお示しします。

地域医療支援病院として、当院は地域の医療機関の皆様からの診療のご依頼に、可能な限り応需する体制を整えております。豊富な専門診療科を持つ当院の“入り口”として、利用しやすく、安心して患者さんをご紹介いただける窓口として、総合臨床センターをご活用ください。

2024年度臨床研修センター診療実績

受診人数	3103	救急車台数	2185
------	------	-------	------

●29症候(2024年度合計)



総合臨床センター スタッフのご紹介

総合臨床センター 副部長

はや かわ みね し
早川 峰司

資格等 日本救急医学会 救急科専門医／指導医、日本集中治療医学会 集中治療専門医、日本外傷学会 外傷専門医、日本麻酔科学会 麻酔科専門医、日本血栓止血学会認定医

Message

市立札幌病院の救命救急センターで3年間、北海道大学病院の救命救急センターで22年間、重症患者を対象とした救急集中治療に携わってきました。2025年4月から縁あって、若かりし頃を過ごした市立札幌病院に戻ってきて、総合臨床センターで勤務しています。高齢者の体動困難から、呼吸不全、意識障害、敗血症、幅広く対応しておりますので、お気軽にご依頼ください。

総合臨床センター 副医長

いし い ゆう こ
石井 瑤子

資格等 日本小児科学会小児科専門医、産業医、NCPRプロバイダー、PALSプロバイダー

Message

北里大学を卒業後、東京で初期研修、小児科の後期研修を終え、そこから沖縄の久米島という離島で総合診療、小児科、救急、訪問診療等、いわゆる‘島の医者’をしていました。現在は出身の札幌に戻り、臨床研修センターで救急の訓練を積ませて頂いております。急患に限らず、診断に悩む患者様や他科に渡る患者様等、ご紹介頂けたら幸いです。

総合臨床センター 医長

まつ だ とも みち
松田 知倫

資格等 日本救急医学会救急科専門医、臨床研修指導医講習会終了、卒後医師臨床研修プログラム責任者養成講習会終了

Message

何科なのかわからない、複数科にまたがっているため頼みづらい、という領域を専門としています。ERでの勤務経験が長く急病が得意ですが、順に謎を解いていくような領域についても勉強させてもらっています。診療科や手術治療が特定される場合、また集中治療が依頼の主目的となる場合を除き、二つ返事でお受けすることを個人的な目標としております。患者紹介を通じて、今後ともご指導をいただければ幸いです。

総合臨床センター 部長

くぼ た なる み
窪田 生美

資格等 日本救急医学会救急科専門医、社会医学系専門医・指導医、日本DMAT登録隊員、日本災害医学会MCLSインストラクター、北海道災害医療コーディネーター

Message

超高齢社会において、病態が複雑化し診断や治療がより難しくなっているように感じます。そのような中で、地域の医療機関の皆様と連携し、一人ひとりの患者さんに寄り添って、個々に応じた最善の医療を共に提供したいと考えています。地域の医療を支える一員として、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

気胸センターのご紹介

市立札幌病院 呼吸器外科副部長 櫻庭 幹



資格等 日本外科学会専門医・指導医、呼吸器外科専門医、日本呼吸器外科学会指導医・評議員、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医・評議員、日本気胸嚢胞性肺疾患学会理事・評議員、日本胸部外科学会評議員、北海道外科学会評議員、日本呼吸器外科学会胸腔鏡安全技術認定医、札幌医科大学臨床教授、Certificate of da Vinci Surgical System コンソール外科医

24時間365日気胸患者さんの受け入れを行っています。お気軽にご連絡ください

連絡先：011-726-2211 (代表) “気胸患者の紹介で”とお伝えください

先生方からたくさんの気胸患者さんをご紹介頂き、当センターは18年目を迎えることができました。私が赴任した2012年4月から2024年12月までの新規受診患者さんは1644名となりました。気胸手術は2025年4月1日現在で1000例(全身麻酔963例、局所麻酔37例)に達しました。皆様のご協力、ご支援に感謝いたします。

当センターの特徴は、全身麻酔手術以外にも空気もれを止める様々な治療手技を持っていることです。全身状態の良好な症例(いわゆる外科適応)は他施設の外科でも積極的に治療が行われていますが、当センターではそれだけでなく、内科をはじめ外科適応にならなかった症例に対しても治療を行っています。胸腔ドレナージ治療が行われていると退院ができず、患者さんのQOLを低下させてしまいます。在宅酸素療法(HOT)が行われていても、患者さんのご希望があれば積極的に治療を行っています。胸腔ドレーンがなく生活できることが我々の目標です。

原発性自然気胸(特に若年者中心)に対する再発予防と癒着回避に向けた手術

当センターの全身麻酔による胸腔鏡下手術の特徴は再発予防と胸腔内の癒着を軽減させた二重被覆術(Dual coverage; DC)です。原発性自然気胸は若いやせ型の男性に多く、空気もれの原因となるブラの切除のみでは、その後の経過中に新規ブラが発生し、術後再発をきたすことが報告されています。実際、他院術後再発症例も当センターでは多く治療しています。このDC術は、ブラ切除線を中心に肺尖にポリグリコール酸シート(PGA)を貼付し、ブラの有無にかかわらずS6肺尖に酸化再生セルロースシート(ORC)を貼付したのち(図1)その上に大きく癒着予防のための酸化再生セルロースシート(Interceed)を貼り付けることです(図2)。当科で手術を行った原発性自然気胸症例の術後再発は6.6%であり、他施設と比較し良好な成績です。

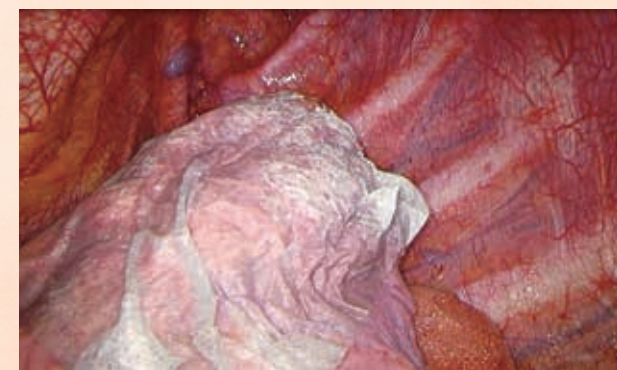


図1 手術写真。肺尖中心にポリグリコール酸シート(PGA)を貼付し、S6肺尖に酸化再生セルロースシート(ORC)を貼付する。胸膜肥厚を促進させ再発を予防する。



図2 手術写真。図1のシートの上全体に酸化再生セルロースシート(Interceed)を貼り付け胸壁への癒着を回避する。



〈総合臨床センタースタッフ〉
左から佐藤朝之部長、古元重和先生、早川峰司副部長、松田知倫医長、中村雅則センター長、窪田生美部長、石井瑤子副医長

続発性自然気胸（特に難治化した）に対する複合的治療

続発性自然気胸では、基礎疾患の有無により変わります。

①間質性肺炎を基礎疾患とする症例は、間質性肺炎が落ち着いていれば全身麻酔で行い、活動期や全身状態が悪い場合は、局所麻酔下（LVATS）や非挿管鎮静下（NIVATS）で行います。場合によっては胸腔造影下フィブリン織閉鎖術（TGF）や気管支鏡下気管支塞栓術（EBO）、50%ブドウ糖溶液を用いた胸膜癒着術などを組み合わせて行っています（図3）。一番の問題は、間質性肺炎急性増悪は致死的です、それを考慮した治療が必要となります。

②肺気腫を基礎疾患とする症例は、基本全身麻酔で行いますが、重症肺気腫の場合は全身麻酔後酸素需要が増えるため、症例によっては全身麻酔をあきらめLVATS、NIVATS、TGF、EBOや化学的癒着療法を組み合わせさせておこなっています。

③肺腫瘍や非結核性抗酸菌症など肺感染症に伴う症例の場合は、全身状態がゆるせば、基本全身麻酔手術を行っています。残念ながら期間中難治性気胸症例16名（1%）ほどが空気もれを制御することが困難でした。

外科治療のみならず、その他の治療で空気もれを制御し、社会復帰できるよう頑張っております。自然気胸や、難治化してお困りの気胸患者さんがいらっしゃいましたら、お気軽に当センターにご相談ください。

（文責 気胸センター・呼吸器外科 副部長 櫻庭 幹）

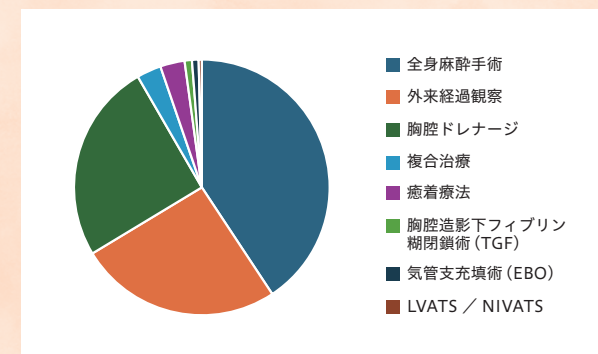


図3 治療方法



図4 気胸センタースタッフ
左から田中亜美先生、新井航先生、中村雅則センター長、櫻庭幹副部長、青柳美穂先生

市立札幌病院 呼吸器センター 令和7年10月1日より開設



左：本村文宏部長、右：櫻庭幹副部長

これまでは、呼吸器疾患の患者さんのご紹介は、呼吸器内科・呼吸器外科の各々の科が窓口となっておりました。紹介科を選択することが難しかった疾患、症例もあったことと思います。この度、当院では呼吸器センターを開設いたしました。センター化に伴い、呼吸器疾患のご紹介も一本化させていただくこととなりました。

診療内容について呼吸器内科は肺がん、気管支喘息、COPD（肺気腫や慢性気管支炎）、間質性肺炎、誤嚥性肺炎などを診療していきます。ただ最近の医師不足で応需できない可能性もあることをご承知おください。呼吸器外科は原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、血胸、感染症（膿胸、肺アスペルギルス症、非結核性抗酸菌症、結核腫など）、重症筋無力症、胸郭出口症候群など胸部疾患を中心に手術を行っています。

今後も引き続きがん診療拠点病院として放射線治療科、放射線診断科、病理診断科とも連携を組み、胸部・呼吸器疾患を総合的に診療してまいります。

気胸センターはこれまで通りの運営となりますので、気胸症例に関しては直接気胸センターまでご連絡いただければ幸いです。

呼吸器センター センター長 呼吸器内科部長 本村 文宏 副センター長 呼吸器外科副部長 櫻庭 幹

連携医療機関のご紹介

桑園オリーブ皮膚科クリニック

桑園オリーブ皮膚科クリニックは、JR桑園駅西口から徒歩1分の場所にある皮膚科専門クリニックです。桑園地区で唯一、皮膚科専門医が2名常勤している施設として、専門性の高い診療ときめ細やかな対応を両立し、地域の皆さまの皮膚の健康を支えています。

当院では、アトピー性皮膚炎、じんましん、にきび、水虫といった一般皮膚科から、粉瘤、ほくろなどの皮膚手術、小児皮膚科、美容皮膚科領域（しみ・しわ・ニキビ跡など）まで、幅広い皮膚のトラブルに対応しています。2名の専門医はそれぞれ医学博士を有し、大学病院・基幹病院での豊富な経験を持ち、年齢・性別を問わず安心して相談できる体制を整えています。

院内には、ダーモスコピー、Qスイッチレーザー、IPL、Vビーム、などの先進機器を備え、皮膚腫瘍の早期発見から美容診療まで幅広い治療が可能です。また、バリアフリー設計により、小さなお子様から高齢の方まで快適に受診いただける環境です。

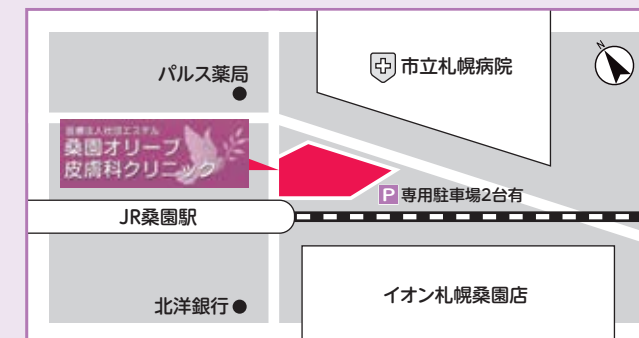
当院は市立札幌病院と緊密に連携しており、入院や高度な検査・治療が必要な際にはスムーズな紹介が可能です。地域の基幹病院との協力体制により、患者様にとって一貫した質の高い医療の提供を目指しています。

「信頼されるかかりつけ皮膚科医」として、これからも地域医療の充実と安心につながる診療を大切にしています。

●交通案内

住所：〒060-001
札幌市中央区北11条西15丁目2-1
サンエーアインビル3F
TEL：011-708-3927

アクセス JR桑園駅徒歩1分



キッズスペースがあるので、お子様連れでも安心です

●診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	●	●	●	●	●	●	—
12:00～13:00	手術	手術	手術	手術	手術		
14:30～18:30	●	—	●	—	●	—	—

※手術は平日12:00～13:00の時間帯に行います。

ホームページ：<https://soen-olive.com/>



令和7年度 第1回市民公開講座の開催報告

■第1回 市民公開講座

日時 令和7年8月25日（月）

テーマ 高齢者や女性に多い膀胱のなやみごと

講師 市立札幌病院 病院長 田中博



令和7年8月25日（月）に第1回 市民公開講座を開催しました。「高齢者や女性に多い膀胱のなやみごと」をテーマに田中博病院長が講演しました。今回は事前申し込みなしで開催しましたが、77名と多くの方にご参加いただきました。講演内容は、男性と女性それぞれの泌尿器に関する困りごとや対策など、イラストを用いてお話しされました。

アンケート結果では「とてもわかりやすい内容だった」「気持ちのいい学習だった」「悩んでいたことなので話が聞けてよかった」と好評の意見を沢山いただきました。他、「事前申し込みが不要だったため参加しやすかった」という意見も多数あり、次回も申し込み不要で準備を進めてまいります。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

令和7年度 第2回 市民公開講座のお知らせ

テーマ **尿酸値が高いとは？～痛みだけではない忍び寄る内臓への影響～**

開催日時 令和7年 10月 29日（水）13:30～15:00

開催場所 市立札幌病院 2階講堂 ※事前申し込み不要

講師 市立札幌病院 理事・副地域連携センター長

片岡 浩 | 専門分野 リウマチ・免疫疾患 痛風・高尿酸血症 アレルギー性疾患



『Dr to Dr 患者紹介専用ダイヤルをご活用ください』

～紹介する診療科に迷う場合は「総合臨床センター」をご指定ください～

Dr to Dr 患者紹介専用ダイヤル Tel: 011-788-6570

ご利用方法

※医師よりお電話をいただき、ご指定の診療科または医師をお伝えください。

電話交換より担当医師におつなぎ致します。

※土日祝、夜間（17:15～8:45）は当直医師が対応致します。



編集後記

日頃より、当院の地域連携にご理解・ご協力をいただき誠にありがとうございます。今年4月から地域連携課に配属したMSWの志田と申します。私は退院調整やがん相談員として患者さんやご家族の支援に携って来ました。地域連携課では医療機関との連携が主な業務となりますが、常に患者さんの視点で関係機関の皆さまと良好な連携ができるように努めていきます。

私事ですが、今年2月に長男が生まれました。慌ただしい毎日ですが、息子が笑顔を返してくれる日が増えて癒されています。皆さんとの連携でも笑顔で関係を築いていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。（志田記）

